

リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
あしや
市民活動
センター
リード芦屋
記事
岩城眞優

多様性尊重した街を

身体障害者福祉協会の杉田俱子さん

6月18日、リードあしやで開かれた「日常をユニバーサルマナーでつなぐ」に参加しました。そこで、芦屋市身体障害者福祉協会の杉田俱子さんに、芦屋市と障がいのあるの人たちとの繋がりについてインタビューしました。

「芦屋市は周りの地域に比べると障がいの者の取り組みについて理解はある方だと思うけど、市民一人一人に伝わっているかは分からない」と杉田さんは話します。

芦屋市は全国的にも最初にインクルーシブ教育が行われた地です。インクルー



シブ教育とは、子どもたちの多様性を尊重し、障がいのある人、ない人に関わらず、すべて子どもを包含する教育方法を指します。

芦屋を誰もが暮らしやすい街にする取り組みも続けられています。芦屋ビーチ

では、防潮堤があったため車椅子の人がすぐには出入りできないような仕組みになっていましたが、そこに扉をつけることで簡単に出入りできるようになったそうです。

また芦屋市身体障害者福祉協会は長年、陽光町に音声信号を要望していましたが、芦屋市と芦屋警察の協力によって設置されました。今では視覚障害の人たちが安心して渡っているとい

「いつかは叶う」

市民の一部、の意識大切



杉田さんは「芦屋市は障がい者だけが住んでいるわけではなく、私たちは芦屋市民の一部だから、多くのことをすぐにしてほしいと願うのではなく、『いつか叶うときが来る』と思うことが大事」と話します。

障がいのある人の家庭はさまざまです。障がいのあることを隠す家庭もあれば、隠さない家庭もあります。災害時は要援護者名簿をもとに救助活動が行われ

ます。もし名簿に登録していないと大切な命が失われてしまうかもしれません。ところが、登録に抵抗があるという現状もあります。

「何も恥ずかしいことではないから自分から助けを求めたらいいと思う」と杉田さんは話します。杉田さん自身、安心して過ごせるように近所の若い人たちと仲良くなり、いろんな人に「助けてね」と今のうちから言っているそうです。